

プログラムのねらい

○全ての児童生徒が主体的に成長・発達していくため、特に自己表現が苦手な児童生徒や、活動に消極的な児童生徒に焦点化して働き掛ける。

児童生徒の発達を「ささえる」ポイント

③-3 自己表現が苦手な児童生徒や、活動に消極的な児童生徒に焦点を当てる。

指導プログラムの進め方

キラリ発見シートの目的

教員が自己表現が苦手な児童生徒や、活動に消極的な児童生徒に焦点を当てて、意図的に関わりを増やす。

対象の設定

- 例
- ・全校で一斉に行う。（全教職員で全校児童生徒を見る）
 - ・〇学年で実施。（〇学年に関わりのある教職員で対象学年の児童生徒を見る）

キラリ発見シートの活用の流れ

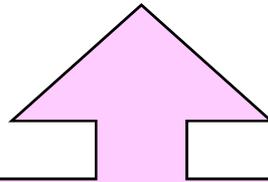
- ①学級ごとに、児童生徒の名前の記された「キラリ発見シート」を準備し、職員室の一角に置く。
（校内事情による。児童生徒の目に触れないところが望ましい）
 - ②教員は、常に付箋紙を携帯し児童生徒のキラリと光る姿や行動をメモし、台紙に貼る。
（例）「元気に挨拶をしていた」
「進んで手伝っていた」
「優しい声掛けをしていた」
「仲間を助けていた」
 - ③台紙を学年スタッフで定期的に点検する。
 - ④付箋紙が少ない生徒について、週末に学年で共有し、次の一週間意図的に関わりを増やすよう共通理解を図る。
- ※実施期間が終了したら、キラリ発見シートに貼ってある付箋紙を担任が回収する。褒める・認める際のヒントとして活用したり、所見文に活用したりする。

キラリ発見シート活用の留意点

※文化祭の期間、運動会の期間、〇月の1か月間など、期間を限定して取り組む方が、教員もめりはりを付けて実践することができる。

キラリ発見シートの活用方法について

クラス ○年○組						
名前 1	名前 2	名前 3	名前 4	名前 5	名前 6	名前 7
名前 8	名前 9	名前 10	名前 11	名前 12	名前 13	名前 14
名前 15	名前 16	名前 17	名前 18	名前 19	名前 20	名前 21
名前 22	名前 23	名前 24	名前 25	名前 26	名前 27	名前 28
名前 29	名前 30	名前 31	名前 32	名前 33	名前 34	名前 35



- ・名前の下のスペースに付箋紙を重ねて貼っていきます。
- ・顔写真付きの台紙を使うと、氏名が分からなくても付箋紙の貼付ができます。
- ・全教職員で児童生徒一人一人を見ていくという意識が大切です。
- ・キラリが多い児童生徒は付箋紙が溜まっていきますが、少なかったり全く貼られなかったりする児童生徒が出てきます。
- ・付箋紙が少ない児童生徒や全く貼られない児童生徒に焦点を当てて、意識的に働き掛けを増やしていき、成長・発達につなげることがねらいです。